



令和 4 年 6 月 2 日
午前・午後 10 時 36 分 受領

No. 1

議長	事務局長	係
		

令和 4 年 6 月 2 日

愛南町議会議長 原田 達也 殿

愛南町議会議員 石川 秀夫

一般質問通告書

次のとおり通告します。

(答弁一括方式 ・ 答弁分割方式)

質問の要旨	答弁を求める者
<p>1. マイナンバーカードの普及促進について</p> <p>愛媛県ではマイナンバーカードの取得と普及促進を図るために愛媛県版マイナポイントを上乗せする6月補正予算が発表されております。まだまだ取得率が低い中でマイナポイントの申請期限が令和4年9月末、申込期限が令和5年2月末に迫っています。</p> <p>マイナンバーカードの普及により、医療機関での個人の投薬データ等を取得できるなど、利用者のみならず行政にとっても事務作業の軽減や重複的な作業が簡素化されるメリットがあります。</p> <p>総務省も時間がない中で各県、各市町村に申請、取得を要請されていると思います。先進地ではすでに交付率が84%を超えている自治体もあります。</p> <p>そこでお伺いたします。</p> <p>(1) 5月末現在の愛南町の申請状況と交付状況、マイナポイントの申請期限が9月末に迫る中今後の普及促進の取り組みについてどのような計画をしているか？</p> <p>(2) 申請や交付に際し町民をサポートする弾力的な運</p>	町長

用は計画していないか？

(3) コロナワクチンの申請に際しスマホでの申請サポートや代理申請、電話での申請手続き等がありましたが、マイナンバーカード申請に関しては町民からの受付のみであり、業務の標準化する上であまりに違いがでてきているのではないかと思います。マイナンバーカードの普及はデジタル改革 DX を進める上で国も積極的に導入を進めています。各課、各支所で違った手続きであれば、行政サービスを受ける町民は困惑するのではないかと思います。業務の標準化、デジタル化をどの様に進める計画か？

2. 町道、町管理の河川のインフラ整備促進について

南海トラフの大地震の発生予測が政府の地震調査委員会から 40 年以内で 90% 程度に引き上げると今年の 1 月 13 日に公表されました。

また、近年の気候温暖化による豪雨被害により、河川氾濫、土砂災害、河川からの流木、ごみ等の海への流入により、漁業被害等が毎年のように発生をしております。今年も 6 月の梅雨時期を迎え非常に心配をしております。

そこでお伺いたします。

(1) 行政協力員からの地区要望が建設課に令和 3 年度で 267 件寄せられ、うち 206 件実施されているが、未実施の 61 件の中に防災減災の観点から危険箇所はないか？

実施された工事の中でも防災減災の観点で十分な工事がなされているか？災害に対して公助ができるのは被災する前の準備をすることだと思いますが、土砂災害危険地域などがある場合、工事の検証、点検等はどのように取り組まれているのか？

町長

(2) 旧西海中学校を防災拠点にするために町道櫛月竹倉線の改良工事が計画されていますが、御荘地区からの旧西海中学校へ利用も可能だと答弁をされています。御荘節崎、栄町、馬瀬地区は西海有料道路がありアクセスは可能です。中浦地区からは県道尻貝船越線がありアクセス可能です。

しかし深泥、防城成川、赤水、高畑猿越地区から防災拠点の旧西海中学校へは狭い町道高畑竹倉道路を利用しなければなりません。アクセス道路を整備する必要がありますが、今後、アクセス道路の拡幅工事、整備計画はありますか？

愛南町は南海トラフ地震の特別指定地域です。国土強靱化等の補助金もありますので補助金を利用した予算措置等の計画も併せてお伺いします。

3 ウクライナ情勢による物価高騰対策について

毎日のように報道等でロシアのウクライナ侵攻が伝えられ、小麦の輸出やアンモニア工場の破壊により尿素の輸出が困難な状況が向こう数年続くと予想されています。JA全農もこの6月から肥料の値上げを最大で94%行うと発表されています。農業を取り巻く資材購入状況は劇的に変化しており、農作物への価格転嫁が進まない中、農業の経営環境の悪化や、アフリカや中東での食料危機が予想されております。

この対策として愛媛県は、高騰する小麦、裸麦の増産を目的として6月補正予算で3260万円を計上しています。

国は、生産拡大の推進をするため、機械・施設導入に対し経費の2分の1の定額を補助することが決定しております。

愛南町の農業も食料安保、食料自給率向上を目指して安心安全な食料を安定提供することが大事なことだと思います。そこでお伺いいたします。

町長

(1) 現在、愛南町では米作の裏作としてほとんど作付けされていないが、裸麦や小麦の作付けを促進する計画をされているのか？補助事業の予定を含めて今後の取り組みについて伺います。

(2) 愛媛県産の裸麦の生産量は 25 年連続日本一になっております。松山市、西条市近郊では盛んに裸麦、小麦の生産がされており、昔と比べて麦の品種も多く、愛南町に合う反収が上がる品種もあるはずです。

愛南町産の麦から作った麦みそ、焼酎ができれば、愛南町の特産にもなると思います。生産拡大できた場合の麦の特産品づくりの計画について伺います。

以上